

東アジア国際言語学会第10回会報

2025年3月

高橋雄一

2025年度の本学会の活動についてご報告をいたします。

1. シンポジウム「単語における語彙と文法の相互作用をめぐって」

2025年9月7日(日)14:00-17:00 に対面(学習院大学・目白キャンパス)及びオンライン開催で「単語における語彙と文法の相互作用をめぐって」というシンポジウムを行いました。内容は以下のとおりです。

須田義治(大東文化大学)「言語の発展のなかの語彙と文法—奥田言語学の方法論—」

早津恵美子(名古屋外国語大学)「奥田靖雄の「カテゴリーカルな意味」をどのように受け継ぐか」

茶谷恭代(桜美林大学)「語彙的な意味を支える文法的な形式—多義の記述をめぐって—」

野田大志(愛知学院大学)「湯本昭南の語構成論における先見性と現代的意義」

(全体討議 司会) 前田直子(学習院大学)

2. 2025年度 第13回大会

2025年度は、2026年2月28日、3月1日に第13回大会を開催しました。プログラムは以下のとおりです。

第1日目 2月28日(土)

13:00-13:05	開会の辞：須田義治(大東文化大学)
研究発表	司会：野田大志(愛知学院大学)
13:05-13:35	1 趙海城(明星大学) 「中国語を母語とする上級日本語学習者の作文使用語彙の特徴について」
13:40-14:10	2 高橋雄一(専修大学) 「複合辞としての「ことなら」について」
14:15-14:45	3 彭広陸(吉林外国語大学) 「名詞型の言語としての日本語論」
14:45-15:00	休憩
講演	
15:00-16:00	井上優(日本大学)「『ても』と『也』」(司会：前田直子(学習院大学))

16:05-17:05	郭春貴（広島修道大学名誉教授）「これからの中国語教師に求められる資質・能力は？」（司会：畢文涛（北京語言大学）
17:05-17:15	閉会の辞：福田翔（富山大学）
17:25-18:05	理事会

第2日目 3月1日（日）

9:55-10:00	開会の辞：高橋雄一（専修大学）
研究発表	司会：佐々木俊雄（東洋大学）
10:00-10:30	1 徐幸華（奈良女子大学大学院博士後期課程） 「日本語連体修飾節における制限的・非制限的用法の中国語訳」
10:35-11:05	2 李曉倩（奈良女子大学大学院博士後期課程） 「複文における“心里”の役割」
11:10-11:40	3 加藤夏希（名古屋大学大学院博士前期課程） 「広東語の卑語に関する研究—「關（撚）(lan2)」を中心に—」
11:40-13:00	休憩 ※会員の方は 11:40-12:20 総会
研究発表	司会：志波彩子（名古屋大学）
13:00-13:30	4 孫聰雨（大阪大学大学院博士後期課程） 「感情誘発の使役受身構文における使役主の格選択 —日本語の格体系との関連を中心に—」
13:35-14:05	5 楊文華（岡山大学大学院博士後期課程） 「現代日本語における副詞「わりに／と」の意味用法 —評価性と基準に着目して—」
14:10-14:40	6 楊延蘭（名古屋大学大学院博士後期課程） 「動詞述語+ながら」構文の多義性について」
14:40-14:50	休憩
研究発表	司会：小嶋栄子（元長崎短期大学）
14:50-15:20	7 邢立中（岡山大学大学院博士後期課程） 「勧誘文としての「スルカ」「シナイカ」を述語とする文について」
15:25-15:55	8 卢凤雪（广西大学大学院博士前期課程） 「『砂の女』における「てしまう」の使用実態と文学的機能」
15:55-16:05	休憩

研究発表	司会：青木萌（長野大学）
16:05-16:35	9 賈兆昆（東京大学大学院博士後期課程） 「存在文と所有文との曖昧性に対する日中両言語の対照研究 — 「概念」と「実体」との対立の視点から—」
16:40-17:10	10 孟慧（専修大学） 「翻訳課題を通じた中国語母語日本語学習者の誤用の特徴 — 直訳文と意訳文の比較研究」
17:15-17:45	11 史曼（中国陝西師範大学） 「基于生成词库理论的汉日并列关系复合动词对比分析」
17:45-17:55	閉会の辞：趙海城（明星大学）

3. 拡大常務理事会と総会

拡大常務理事会と総会の審議事項と報告事項の内容は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. 2025年度からの役職等の変更

2025年度からの役職等における変更点が以下のように説明され、承認されました。

新理事：小路口ゆみ

2. 決算と予算

安明姫先生より報告があり、承認されました。

3. 監査報告

小路口ゆみ先生より報告があり、承認されました。

〈報告事項〉

1. 事務局からの報告

事務局長から25年度の活動について報告がありました。

2. 編集委員会からの報告

編集委員長から25年度の活動について報告がありました。

3. 大会委員会からの報告

大会委員長から25年度の活動について報告がありました。